

2025年3月期
第2四半期（中間期）決算説明会

質疑応答（要旨）

2024年11月8日

杏林製薬株式会社



2025年3月期 決算説明会 質疑応答（要旨）

質問内容	回答
1 リフヌア： 売上が上期計画に届いていない。 服薬日数が想定より短いことは前期にも説明があったが、今期はさらに服薬日数が短くなったのか、想定よりも伸びなかったのか等、現在の状況と、それを踏まえた下期の対応を教えてください。	服薬日数の短さの要因として、味覚の変化による服用中止と、治療効果が早期にでたことによる治癒であることは、これまでの説明の通り。今期は処方日数のバラツキを埋める取り組みを進めている。特に病院層でその効果が出てきており、前年同時期と比較して処方日数が増加している。服薬指導時における医師と患者のコミュニケーションのあり方、適切な情報をいかに患者さんに届けるか、専門家を交えて対応しており、その効果が病院層で出ているようだ。今後、紹介患者がクリニック戻ること、クリニックでの処方日数が増えることに手ごたえを感じている。下期の評価を見ながら、来年度の計画に反映する予定。
2 リフヌア： ガイドライン掲載予定時期は？	「難治性の慢性咳嗽」の定義が曖昧なため、専門医の中でも診断基準が明確になっていない状況である。ガイドライン等の発刊により、診断基準及び治療方法が明確になることを期待しており、ガイドラインでリフヌアが適切に評価されるよう議論を進めている。発刊時期としては年度末か翌年度だとみている。
3 リフヌア： 2025年度目標の売上45億円に向けどのように加速するのか？	医師の評価では、味覚変化と治療効果発現の時期が近いとのことなので、味覚の変化が許容範囲内であればもう少し長く服用し、治療を実感してから製品を評価してもらえるよう働きかけている。専門家の評価をもらうことが一番の課題。エビデンス構築、ガイドライン掲載に時間がかかっているが、現時点では、処方する医師からの評価をクリニックにいかに伝えるかに努めている。

質問内容	回答
<p>4 選定療養： 長期収載品、後発医薬品事業への影響は出ているか？</p>	<p>制度が10月に始まったばかりのため、現時点で大きな影響はない。 長期収載品では、キプレス、ムコダインについては後発医薬品の供給不安が回復してくれば影響受けるのではないかと考えている。特に、小児用製剤のGEへの置換率は成人用と比べ20%程度低いため、今後は影響を受ける可能性がある。</p> <p>他社同様、当社グループの後発医薬品においても、貼付剤等で影響があり、引き合いが増えている。いずれにせよ、選定療養の影響については供給問題が解決してから明らかになるのではないかと考えている。</p>
<p>5 ムコダイン増産： 厚労省の要請を受けて増産しているが、過剰在庫の状態でも、冬場にかけて増産対応は継続するのか？</p>	<p>鎮咳剤の供給不安が去痰剤へも影響を与えていた状況下、冬場に呼吸器疾患の増加によりニーズが高まっていたが、年明けから鎮咳剤の供給が回復したため、特に小児製剤について卸店の在庫が過剰となった。</p> <p>また今回は、夏場の計画に対しての在庫が過剰だったとの認識であり、下期の在庫が過多とは考えていない。ムコダインの数量は、カルボシステイン市場全体の20%程度であるため。当社の増産体制は継続するが、他社の供給が回復しないとコントロールできない。今後の製造については微妙なコントロールが必要になると考えている。</p>

2025年3月期 決算説明会 質疑応答（要旨）

質問内容	回答
6 導入案件： 導入品の状況はどうか？	現在複数の案件について交渉が同時進行している。まだ明確には言えないが、契約でき次第公表する。年度内に複数品目の契約成立を目標と考えている。25年度までに6製品を導入するという目標には至っていないが、個人としてはかなり期待を持っている。
7 研究費： 予算を超過しても、魅力的なものであれば導入する予定か？	大型案件であれば予算を超える可能性はある。状況によっては研究費がかなり超過する可能性があると考えている。
8 インキュベーション： 上気道疾患を対象とした他のバイオベンチャーもある中、エクソソームを選択した背景は？規制上の変化があったのか、他社の成功なのか、どこにチャンスを感じたのか？	呼吸器疾患の種類によっては、マルチに作用する作用機序の方が効果的に有効性を得られるのではないかと考え、またその研究報告があったため細胞外小胞創薬に注目した。直近の状況変化というよりは、様々な案件を検討する中で魅力を感じたことから契約に至った。